

<初期臨床研修プログラム内科コース(2022-2023年度)>

【プログラムの名称】

本プログラムの名称を JR 東京総合病院医師卒後臨床研修プログラム 内科コース(2022-2023年度)とする。

1 【研修の特色】

当院の特色として、ほぼ全分野の診療科が揃っており幅広い臨床経験が可能である。CommonDiseaseのみならず比較的稀な疾患や治療を受け持つ機会もあり、症例数も豊富である。

内科コースでは、将来各専門の内科医になるための基礎を身に着けることを目標とする。

内科として、トータル 40 週の研修期間を設けており、全身管理が十分に行える実力を養うために病棟研修を主体としている。

内科系診療科として、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、脳神経内科、血液腫瘍内科、総合診療内科にて幅広い疾患を研修することができる。

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行って継続的に経過を判断していく能力を涵養する。

臨床手技について、CV・PICC・ポートなど穿刺、縫合結紮の実技講習、BLS 講習や人工呼吸器の管理、各種エコー操作を学ぶ機会を設けている。また、心臓カテーテル、上部内視鏡、気管支鏡、骨髓穿刺などの経験が可能である。

2 【研修の目標】

当院での初期臨床研修においては、患者さまの病態生理に基づいて適切な治療方針を決定するという医師としての大原則を身につけるとともに、これを患者さまに説明しながら医療を進めて行くという基本姿勢をかん養する。また幅広いプライマリケアと 2 次救急レベルの対応能力を身につけ、各疾患の理解を深めて最善の全身管理ができるようになることを目標とする。

3 【研修を行う分野・期間・臨床研修病院】

本プログラムは、医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令に沿い、当院臨床研修管理委員会下に管理され、研修期間は 2 年である。

※研修ローテーションはすべて 4 週毎で実施し、研修開始時から最初の 4 週間は志望診療科に基づき内科必修科目から委員会が指定し、病棟業務など研修開始にあたり最低限必要な知識等を身につける。

なお、コース及びローテーション順については、原則変更は認めない。

研修を行う分野	研修期間	研修を実施する病院
内科分野（必修）	40 週 (脳神経内科、糖尿病・内分泌内科/リウマチ・膠原病科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液・腫瘍科の 6 部門を中心にロートート)	JR 東京総合病院（基幹型）

	する。	
救急部門（必修）	1年次に救急科8週、麻酔科4週、2年次に救急科4週、麻酔科4週をローテートする。	J R 東京総合病院（基幹型）
地域医療（必修）	2年次に4週 J R 仙台病院は外科コースの希望者と併せて定員を2名までとする。	J R 仙台病院または渋谷区医師会プログラム（協力施設）
外科分野（必修）	12週	J R 東京総合病院（基幹型）
小児科（必修）	2年次に4週を必須	J R 東京総合病院（基幹型）
産婦人科（必修）	2年次に4週	J R 東京総合病院（基幹型）
精神科（必修）	2年次に4週	東京都立松沢病院（協力型）
一般外来（必修）	並行研修 2年次に総合診療科で2週、小児科で2週、地域医療研修2週を並行研修で行う。	J R 東京総合病院（基幹型） 及び渋谷区医師会プログラム（協力施設）
病院で定めた必修科目	2年次に総合診療科4週、麻酔科4週	J R 東京総合病院（基幹型）
選択科目（選択）	下記の診療科より12週を選択、ただし1診療科4週までとする。（必修の内科分野、外科分野の診療科に加えて脳神経外科・脳血管内治療科、救急科、麻酔科、臨床検査科（病理）、皮膚科、耳鼻科、眼科、泌尿器科、放射線科、形成外科、リハビリテーション科、産婦人科、精神科、小児科より選択。）	J R 東京総合病院（基幹型） または東京都立松沢病院（協力型）

4 【代表的なスケジュール例】※ローテーション順は固定とする（変更不可）

グループ（1）：1年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52
 内科 救急 救急 麻酔 外科 外科 内科 内科 内科 内科 内科 内科

グループ（2）：1年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52
 内科 内科 内科 内科 内科 救急 救急 麻酔 外科 外科 外科 内科

グループ（3）：2年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52
 精神 総診 内科 内科 選択 内科 選択 麻酔 救急 地域 小児 産婦 内科

グループ（4）：2年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52

5 【その他の教育について】

研修プログラムの一環として以下の業務を行う。

- (1) 夜間および休日休診日当直：常勤医の指導下で研修医当直を行う。
- (2) 防火、防災、消防等の災害医療訓練に参加する。
- (3) 研修管理委員会の指定する講演会、講習会、研修会、オリエンテーションなどに参加する。
- (4) CPCへ参加する。

※研修管理委員会が指定する教育（この他指示があるものには原則参加すること）

オリエンテーション	・入社時オリエンテーション
各種委員会主催	・医療安全（虐待）セミナー ・感染対策セミナー ・緩和ケアセミナー ・サービス研修
厚生局主催	・保険診療についての集団指導講習会
その他	・CPC（要症例提示） ・その他各診療科主催の院内勉強会 等

6 【研修の評価方法と修了認定】※評価方法はEPOC2を用いる。

＜評価方法＞

- ① 研修医は自己評価及び経験した手技等について 4 週毎のローテーション終了時にオンライン卒後臨床研修評価システム（「EPOC2」）の入力を行うこと。レポートについては作成したものをEPOC2上へアップロードし、指導医へ評価依頼を行うこととする。
- ② 指導医は、各週のローテーション終了後にEPOC2に研修中の評価を記録する。
- ③ 臨床研修管理委員会は、指導医、研修医を対象に目標達成の成果を評価する。なお、評価についてはスーパーバイザー及び指導医、医師以外の指導者からの意見を参考にし、各研修医の病歴概要、CPC記録、各種カンファランス記録、院外学術集会発表記録、カンファランス、セミナーの出席率を基に評価を行う。

＜修了認定＞

研修医の到達度の評価に基づき、臨床研修管理委員会の承認を得て、病院長がプログラム修了証を発行する。

7 【指導体制】

＜臨床研修管理委員会＞

院長、プログラム責任者、協力型臨床研修病院及び協力施設の研修実施責任者、研修医代表、委員長の指名する院内委員、委員長の委嘱する院外委員及び事務の責任者で構成される。

臨床研修管理委員会委員長（プログラム責任者）：副院長 杉本 耕一

臨床研修管理委員会副委員長（外科コース責任者）：副院長 三浦 俊樹

事務責任者：事務部長 岩井 稔

<指導医>

指導医は卒後の臨床経験 7 年以上で、臨床研修指導医講習会を受講したプライマリケアの指導を充分行える能力と意欲を有する当院常勤医より、臨床研修管理委員会が任命する。

<上級医>

研修医より臨床経験の長い医師で、指導医の指示のもと研修医の教育を行う。

<スーパーバイザー>

各 1 年次研修医に対して、プログラム責任者の統括の下に編成された臨床研修スーパーバイザーチームの担当医が定期的面談を通して研修状況を横断的に把握・評価するとともに、精神面も含めたサポートを行う。

<医師以外の指導者>

各ローテート中に医師以外の視点での指導・評価を行う。

8 【研修医の待遇】・研修期間中のアルバイトは禁止とします。

雇用区分	非常勤嘱託
勤務時間	8 時 30 分～17 時 00 分まで（休憩時間 60 分）
当直時間	17 時 00 分～翌 8 時 30 分まで（労働時間ではありません）
日直時間	8 時 30 分～翌 17 時 00 分まで（労働時間ではありません）
時間外勤務	研修医は、所属部科長の指示及び承認を受けた場合に限り時間外勤務及び休日勤務を行うものとする。
当直	1 年次の 3 週目以降より開始、月 4 回を目安とする。 研修医 1 年次及び 2 年次を 1 名ずつ その他、内科指導医または上級医 2 名、外科指導医または上級医 1 名、産科宿直医 1 名
給与	1 年次 月額 273,000 円 2 年次 月額 278,200 円 + 【諸手当】 • 宿日直手当 • 時間外勤務手当 • 通勤手当
休暇	年次有給休暇：雇い入れ日から 6 ヶ月間継続勤務後 10 日、その後 1 年毎に労働基準法に定める日数を加算し付与。
研修環境	寮：通勤時間（1 時間半以上）等一定条件を満たしている場合に入寮できることがある。 専用スペース：年次ごとに医局有、個人専用のロッカー/机/P C を設置
各種保険	・社会保険制度完備（厚生年金、雇用保険、健康保険） ・医師賠償責任保険の加入は病院において加入、個人は任意
健康診断	・定期健康診断：年 1 回、特殊健康診断：年 2 回
外部活動	・学会等への参加は可能、費用の負担は無

9 【募集について】※外科コースとの併願は出来ません。

<募集定員> 10名（1年次5名、2年次5名）

<募集方法> 研修医マッチング制度利用。マッチング協会のスケジュールに沿って選考を行う

<選考方法> 筆記試験、医学英文の読解・翻訳および面接試験

10 【各分野別カリキュラム】

別紙に記載

<初期臨床研修プログラム外科コース(2022-2023年度)>

【プログラムの名称】

本プログラムの名称を JR 東京総合病院医師卒後臨床研修プログラム 外科コース(2022-2023年度)とする。

1 【研修の特色】

当院の特色として、ほぼ全分野の診療科が揃っており幅広い臨床経験が可能である。Common Diseaseのみならず比較的稀な疾患や治療を受け持つ機会もあり、症例数も豊富である。

外科コースでは外科系診療科を中心にローテートする。外科として、24週の必修科目、16週の選択科目を加えると、計40週の研修期間を設けている。外科系診療科に関心が高い研修医に対してより実践的な研修の機会を提供し、後期研修へのスムーズな移行を支援する。研修では急性期疾患患者を中心に手術時の縫合技術、周術期の診療計画・全身管理を行う能力を涵養する。

消化器外科研修では急性腹症の診断・治療、習熟度に応じてヘルニアや虫垂炎手術、腹腔鏡手術の経験が可能である。また癌の画像診断、治療法の理解を深め、重症例の周術期管理を学ぶことができる。整形外科研修においては骨折・脱臼の整復、ギプス固定法、習熟度に応じて骨折手術、関節鏡手術を経験できる。マイクロサージャリーのシミュレーション実習も可能である。

呼吸器外科研修では胸腔ドレーンの留置および管理に習熟し、胸腔鏡を用いた肺癌、縱隔腫瘍の手術参加および周術期管理を行う。習熟度に応じて気胸手術を経験すること可能である。

乳腺外科研修では乳腺疾患の全般的な診断・治療に習熟するとともに、マンモグラフィーおよび超音波の読影を学ぶ。

脳神経外科では脳外科一般（脳血管疾患、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎疾患など）の診断、術前管理と術後管理を学ぶ。また、習熟度に応じて慢性硬膜下血腫の手術を経験することが可能である。

臨床手技について、CV・PICC・ポートなど穿刺、縫合結紮の実技講習、BLS講習や人工呼吸器の管理、各種エコー操作を学ぶ機会を設けている。

2 【研修の目標】

当院での初期臨床研修においては、患者さまの病態生理に基づいて適切な治療方針を決定するという医師としての大原則を身につけるとともに、これを患者さまに説明しながら医療を進めて行くという基本姿勢をかん養する。また幅広いプライマリケアと2次救急レベルの対応能力を身につけ、各疾患の理解を深めて最善の全身管理ができるようになることを目標とする。

3 【研修を行う分野・期間・臨床研修病院】

本プログラムは、医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令に沿い、当院臨床研修管理委員会下に管理され、研修期間は2年である。

※研修ローテーションはすべて4週毎で実施し、研修開始時から最初の4週間は志望診療科に基づき外科必修科目から委員会が指定し、病棟業務など研修開始にあたり最低限必要な知識等を身につける。

なお、コース及びローテーション順については、原則変更は認めない。

研修実習実施機関		
内科分野（必修）	24週 (脳神経内科、糖尿病・内分泌内科/リウマチ・膠原病科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液・腫瘍科の6部門をローテートする。)	JR東京総合病院（基幹型）
救急部門（必修）	1年次に救急科8週、麻酔科4週、2年次に救急科4週、麻酔科4週をローテートする。	JR東京総合病院（基幹型）
地域医療（必修）	2年次に4週 JR仙台病院は外科コースの希望者と併せて定員を2名までとする。	JR仙台病院または渋谷区医師会プログラム（協力施設）
外科分野（必修）	24週 (消化器外科、呼吸器外科/乳腺外科、整形外科の3部門を中心にローテートする。)	JR東京総合病院（基幹型）
小児科（必修）	2年次に4週を必須	JR東京総合病院（基幹型）
産婦人科（必修）	2年次に4週	JR東京総合病院（基幹型）
精神科（必修）	2年次に4週	東京都立松沢病院（協力型）
一般外来（必修）	並行研修 2年次に総合診療科で2週、小児科で2週、地域医療研修2週を並行研修で行う。	JR東京総合病院（基幹型） 及び渋谷区医師会プログラム（協力施設）
病院で定めた必修科目	2年次に総合診療科4週、麻酔科4週	JR東京総合病院（基幹型）
選択科目（選択）	下記の診療科より16週を選択、ただし1診療科4週までとする。(必修の内科分野、外科分野の診療科に加えて脳神経外科・脳血管内治療科、救急科、麻酔科、臨床検査科(病理)、皮膚科、耳鼻科、眼科、泌尿器科、放射線科、形成外科、リハビリテーション科、産婦人科、精神科、小児科より選択。)	JR東京総合病院（基幹型） または東京都立松沢病院（協力型）

4【代表的なスケジュール例】※ローテーション順は固定とする（変更不可）

グループ（1）：1年次

1-4(週)	5-8	9-12	13-16	17-20	21-24	25-28	29-32	33-36	37-40	41-44	45-48	49-52
外科	救急	救急	麻酔	外科	外科	内科						

グループ（2）：1年次

1-4(週)	5-8	9-12	13-16	17-20	21-24	25-28	29-32	33-36	37-40	41-44	45-48	49-52
--------	-----	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

外科 内科 内科 内科 内科 内科 救急 救急 麻酔 外科 外科 外科 内科

グループ(3) : 2年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52
精神 総診 選択 選択 外科 外科 外科 麻酔 救急 地域 小児 産婦 選択

グループ(4) : 2年次

1-4(週) 5-8 9-12 13-16 17-20 21-24 25-28 29-32 33-36 37-40 41-44 45-48 49-52
選択 選択 外科 外科 外科 麻酔 救急 地域 小児 産婦 精神 総診 選択

5 【その他の教育について】

研修プログラムの一環として以下の業務を行う。

- (1) 夜間および休日休診日当直：常勤医の指導下で研修医当直を行う。
- (2) 防火、防災、消防等の災害医療訓練に参加する。
- (3) 研修管理委員会の指定する講演会、講習会、研修会、オリエンテーションなどに参加する。
- (4) CPCへ参加する。

※研修管理委員会が指定する教育（この他指示があるものには原則参加すること）

オリエンテーション	・入社時オリエンテーション
各種委員会主催	・医療安全（虐待）セミナー ・感染対策セミナー ・緩和ケアセミナー ・サービス研修
厚生局主催	・保険診療についての集団指導講習会
その他	・CPC（要症例提示） ・その他各診療科主催の院内勉強会 等

6 【研修の評価方法と修了認定】※評価方法はEPOC2を用いる。

＜評価方法＞

- ① 研修医は自己評価及び経験した手技等について 4週毎のローテーション終了時にオンライン卒後臨床研修評価システム（「EPOC2」）の入力を行うこと。レポートについては作成したものをEPOC2上へアップロードし、指導医へ評価依頼を行うこととする。
- ② 指導医は、各週のローテーション終了後にEPOC2に研修中の評価を記録する。
- ③ 臨床研修管理委員会は、指導医、研修医を対象に目標達成の成果を評価する。なお、評価についてはスーパーバイザー及び指導医、医師以外の指導者からの意見を参考にし、各研修医の病歴概要、CPC記録、各種カンファランス記録、院外学術集会発表記録、カンファランス、セミナーの出席率を基に評価を行う。

＜修了認定＞

研修医の到達度の評価に基づき、臨床研修管理委員会の承認を得て、病院長がプログラム修了証

を発行する。

7 【指導体制】

<臨床研修管理委員会>

院長、プログラム責任者、協力型臨床研修病院及び協力施設の研修実施責任者、研修医代表、委員長の指名する院内委員、委員長の委嘱する院外委員及び事務の責任者で構成される。

臨床研修管理委員会委員長 (プログラム責任者) : 副院長 杉本 耕一

臨床研修管理委員会副委員長 (外科コース責任者) : 副院長 三浦 俊樹

事務責任者 : 事務部長 岩井 稔

<指導医>

指導医は卒後の臨床経験 7 年以上で、臨床研修指導医講習会を受講したプライマリケアの指導を充分行える能力と意欲を有する当院常勤医より、臨床研修管理委員会が任命する。

<上級医>

研修医より臨床経験の長い医師で、指導医の指示のもと研修医の教育を行う。

<スーパーバイザー>

各 1 年次研修医に対して、プログラム責任者の統括の下に編成された臨床研修スーパーバイザーチームの担当医が定期的面談を通して研修状況を横断的に把握・評価するとともに、精神面も含めたサポートを行う。

<医師以外の指導者>

各ローテート中に医師以外の視点での指導・評価を行う。

8 【研修医の待遇】・研修期間中のアルバイトは禁止とします。

雇用区分	非常勤嘱託
勤務時間	8 時 30 分～17 時 00 分まで (休憩時間 60 分)
当直時間	17 時 00 分～翌 8 時 30 分まで (労働時間ではありません)
日直時間	8 時 30 分～翌 17 時 00 分まで (労働時間ではありません)
時間外勤務	研修医は、所属部科長の指示及び承認を受けた場合に限り時間外勤務及び休日勤務を行うものとする。
当直	1 年次の 3 週目以降より開始、月 4 回を目安とする。 研修医 1 年次及び 2 年次を 1 名ずつ その他、内科指導医または上級医 2 名、外科指導医または上級医 1 名、産科宿直医 1 名
給与	1 年次 月額 273,000 円 +  【諸手当】 <ul style="list-style-type: none">・宿日直手当・時間外勤務手当・通勤手当

	2年次 月額 278,200円
休暇	年次有給休暇：雇い入れ日から 6ヶ月間継続勤務後 10 日、その後 1 年毎に労働基準法に定める日数を加算し付与。
研修環境	寮：通勤時間（1 時間半以上）等一定条件を満たしている場合に入寮できることがある。 専用スペース：年次ごとに医局有、個人専用のロッカー/机/P C を設置
各種保険	・社会保険制度完備（厚生年金、雇用保険、健康保険） ・医師賠償責任保険の加入は病院において加入、個人は任意
健康診断	・定期健康診断：年 1 回、特殊健康診断：年 2 回
外部活動	・学会等への参加は可能、費用の負担は無

9 【募集について】※内科コースとの併願は出来ません。

<募集定員> 4名（1年次2名、2年次2名）

<募集方法> 研修医マッチング制度利用。マッチング協会のスケジュールに沿って選考を行う

<選考方法> 筆記試験、医学英文の読解・翻訳および面接試験

10 【各分野別カリキュラム】

別紙に記載

JR 東京総合病院
卒後臨床研修プログラム
分野別研修カリキュラム

内科分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

内科研修においては、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科疾患に対応するために、幅広い内科疾患に対する診療を行う。このような研修を通じて、臨床医学全般に必要な診断能力や内科的手技などの基本的な診療能力を幅広く修得する。

② 主治医・担当医体制による研修

内科研修の中で、内科疾患について理解を深めるとともに、その検査・治療とそれらに必要な手技・患者管理などについて学ぶ。診療において、主治医は各診療科の後期研修医以上が担当し、研修医は主に病棟患者の担当医として診療を行う。

各診療科の指導責任者は、担当患者の実態を把握したうえで研修医の担当患者を決定する。その際、研修医の経験症例に偏りが生じないように努める。

表1 当院における内科系必修診療科と指導責任者（2021年4月）

脳神経内科	関口 縁
呼吸器内科	河野 千代子
循環器内科	高橋 政夫
消化器内科	岡本 真
糖尿病・内分泌内科	深澤 由香
血液・腫瘍内科	杉本 耕一
リウマチ・膠原病科	萩原 清文

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

当院では、病院全体や各診療科でさまざまなカンファランスやセミナーが行われている。研修医は、それらに可能な限り参加する。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

<病院全体で開催>

CPC、キャンサーボード

医療安全セミナー、感染対策セミナー、抗菌薬適正使用セミナー

コンプライアンス研修、サービス研修、情報セキュリティ研修など

<各診療科で実施>

症例検討会等（各診療科術前・術後症例検討会、臨床病理検討会など）

外科分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

研修医は各診療科を4週単位で研修する。ただし、呼吸器外科と乳腺外科は並行して研修する。研修の到達目標として下記の達成を目指す。

1. 医療人として必要な基本的価値観および姿勢、態度を身につける
2. プライマリ・ケアに必要な基本的な診療能力を体得する
3. 外科的疾患についての病態生理を理解する
4. 外科的疾患の診断に必要な検査法、検査手技を理解し習熟する
5. 外科的疾患に対する手術手技を理解、習熟する
6. 術前術後の病態生理を理解し、周術期の全身管理を習熟する

具体的な行動目標及び経験目標の詳細については、厚生労働省策定「新たな臨床研修制度の在り方について」の到達目標のうち、外科ローテーション中に研修可能なものについて修得し、その自己評価を行い、さらに第3者の評価を受け入れ、診療にフィードバックする姿勢を身につける。

② 主治医・担当医体制による研修

研修医は、各診療分野チームの指導責任者のもと、診療チームの一員として病棟患者を受け持ち、担当医として病棟における診療の第一線で研修を行う。

表1 当院における外科系必修診療科と指導責任者（2021年4月）

整形外科	三浦 俊樹
乳腺外科	上田 重人
消化器外科	金沢 孝満
呼吸器外科	田中 真人

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

研修医は、病院全体や各診療科等で行われているカンファランスやセミナーに可能な限り参加する。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

<病院全体で開催>	
CPC、キャンサーボード	
医療安全セミナー、感染対策セミナー、抗菌薬適正使用セミナー	
コンプライアンス研修、サービス研修、情報セキュリティ研修など	
<各診療科で実施>	
外科関連検討会等（各診療科術前・術後症例検討会、臨床病理検討会など）	

救急部門分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

1年次に救急科8週、麻酔科4週、2年次に救急科4週、麻酔科4週の研修を実施する。当院は二次救急医療機関であり、様々な急性疾患が頻度順に来院する利点を生かし、研修医が経験すべき症候、疾病・病態（下記）について適切な臨床推論プロセスを学んでいく。そして各病態に応じた初期対応を、十分な経験を積んだ専門医のもと学び体得していく。さらに緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を含み、総合診療、一般内科、一般外科、小児科、地域医療にわたる全般的な臨床研修を網羅する。

麻酔科研修においては、全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔を通じて気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、循環管理法など全身管理について研修する。

臨床で修得した知識や技術を後述の各項目に当て嵌め、逐次に自己評価を行い、さらに第3者の評価を受け入れて、診療にフィードバックする姿勢を身に付ける。

② 主治医・担当医体制による研修

表1 当院における指導責任者（2021年4月）

救急科	関井 肇
麻酔科	武田 憲治

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

当院では、病院全体や各診療科でさまざまなカンファランスやセミナーが行われている。研修医は、それらに可能な限り参加する。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

<病院全体で開催>
CPC、キャンサーサポート 医療安全セミナー、感染対策セミナー、抗菌薬適正使用セミナー コンプライアンス研修、サービス研修、情報セキュリティ研修など
<各診療科で実施>
麻酔科…症例検討会等（麻酔科では毎手術時に術前症例検討会を行っている） 救急科…他科同様、院内で行われるカンファランスやセミナーへの積極的な 参加以外に、独自にモーニングカンファレンスやレクチャーを行う。

小児科分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

研修医は小児科を4週単位で研修する。小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修を含む。小児科研修期間中、院内感染対策、乳幼児健診、予防接種、虐待への対応等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含む。診療領域・職種横断的なチーム（感染制御、栄養サポート、退院支援等）の活動に参加することや、児童・思春期精神科領域（発達障害等）、薬剤耐性菌、ゲノム医療等、社会的要請の強い分野・領域等に関する研修を含む。

② 主治医・担当医体制による研修

研修医は、病棟患者の担当医として診療を行う。主治医は各診療科の後期研修医以上が担当する。各診療科の指導責任者は、担当患者の実態を把握したうえで研修医の担当患者を決定する。その際、研修医の経験症例に偏りが生じないように努める。

表1 当院における内科系必修診療科と指導責任者（2021年4月）

小児科	松原 洋平
-----	-------

③ カンファレンスやセミナーなどへの参加

当院では、病院全体や各診療科でさまざまなカンファレンスやセミナーが行われている。研修医は、それらに可能な限り参加する。

表2 当院で定期的に行われているカンファレンスやセミナー

<病院全体で開催>
CPC、キャンサーボード 医療安全セミナー、感染対策セミナー、抗菌薬適正使用セミナー コンプライアンス研修、サービス研修、情報セキュリティ研修など
<各診療科で実施>
回診、カンファレンス、症例検討会、抄読会など

産婦人科分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

産婦人科において4週以上の産婦人科研修を実施する。

妊娠・出産に伴う産科疾患および内科合併症が妊娠へ及ぼす影響、また妊娠期間中に投薬可能な薬剤について幅広く知識を得る。また、婦人科良性疾患のみならず婦人科悪性疾患の治療適応を判断するために必要な諸検査を適切に計画する実際を産婦人科病棟および産婦人科外来で学んでいく。

② 主治医・担当医体制による研修

チーム医療に基づいて医療を提供しており、研修医は、指導責任者のもと、診療チームの一員として病棟患者を受け持ち、担当医として病棟における診療の第一線で研修を行う。

表1 当院における指導責任者（2021年4月）

産婦人科	北條 智
------	------

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

当院では、病院全体や各診療科でさまざまなカンファランスやセミナーが行われている。研修医は、それらに可能な限り参加する。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

<病院全体で開催>
CPC、キャンサーボード 医療安全セミナー、感染対策セミナー、抗菌薬適正使用セミナー コンプライアンス研修、サービス研修、情報セキュリティ研修など
<各診療科で実施>
症例検討会等（各診療科術前・術後症例検討会、臨床病理検討会など）

精神科分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

東京都立松沢病院にて4週以上の精神科研修を実施する。

実際の臨床を通じ一般臨床医に必要な精神科的手技や診断能力などの基本診療能力を幅広く修得することで、精神疾患への偏見をなくし、精神症状を有する患者や患者全般に対しても、心理一社会的側面からも対応できることを目標とする。

② 主治医・担当医体制による研修

チーム医療に基づいて医療を提供しており、研修医は、指導責任者のもと、診療チームの一員として病棟患者を受け持ち、担当医として病棟における診療の第一線で研修を行う。

表1 協力病院における指導責任者（2021年4月）

精神科	齋藤 正彦
-----	-------

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

研修医は、研修先で指示された勉強会やセミナーには可能な限り参加すること。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

<各診療科で実施>
症例検討会等（各診療科術前・術後症例検討会、臨床病理検討会など）

地域医療分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

2年次にJR仙台病院、渋谷区医師会プログラムのいずれかを選択し、4週以上の研修を行う。当院の位置する渋谷区または同グループ内で地域に根ざした医療を提供しているJR仙台病院にて、地域の特性に即した医療の提供について理解を深める。

② 主治医・担当医体制による研修

表1 協力病院における指導責任者（2021年4月）

JR仙台病院	村越 秀幸
渋谷区医師会プログラム	
医療法人社団 慶友整形外科渋谷	丸岩 博文
おいかわ内科在宅クリニック	及川 武史
医療法人社団潤心会 野地眼科クリニック	野地 潤
平松レディースクリニック	平松 秀子
広尾タワークリニック	西川 文則
医療法人社団松健会 えびす英クリニック	松尾 英男
医療法人社団礼恵会 むすび葉クリニック渋谷	大石 佳奈
クリニック桜丘	山崎 隆夫
医療法人社団慶緒会 南平台緒方クリニック	緒方 寿夫
医療法人財団荘敬会 井上病院	井上 荘太郎
医療法人社団涼水会 木島小児科内科耳鼻咽喉科医院	木島 太郎
医療法人社団育心会 稲垣クリニック	稻垣 稔
医療法人社団温光会 内藤病院	内藤 誠二
代々木上原こどもクリニック	高見 剛
かずえキッズクリニック	川上 一恵
医療法人社団正賀会 代々木山下医院	山下 賀正
医療法人社団松和会 望星新宿南口クリニック	高橋 俊雅
医療法人社団祥樹会 きかわだクリニック	黄川田 雅之
日本赤十字社総合福祉センター レクロス広尾	友安 浩

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

研修医は、研修先で指示された勉強会やセミナーには可能な限り参加すること。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

＜各派遣先で実施（例）＞

学術講習会、胃集検、胸部X線症例検討会、各種カンファランス など

一般外来分野

(1) 研修体制

① 研修の基本概要

地域医療研修及び総合診療科研修時に並行して4週の研修を行う。初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を含む外来研修をとおして、症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き頻度の高い慢性疾患の継続診療を行う。

② 主治医・担当医体制による研修

表1 協力病院における指導責任者（2021年4月）

総合診療科	井上 秀二
小児科	松原 洋平
渋谷区医師会プログラム	
医療法人社団 慶友整形外科渋谷	丸岩 博文
おいかわ内科在宅クリニック	及川 武史
医療法人社団潤心会 野地眼科クリニック	野地 潤
平松レディースクリニック	平松 秀子
広尾タワークリニック	西川 文則
医療法人社団松健会 えびす英クリニック	松尾 英男
医療法人社団礼恵会 むすび葉クリニック渋谷	大石 佳奈
クリニック桜丘	山崎 隆夫
医療法人社団慶緒会 南平台緒方クリニック	緒方 寿夫
医療法人財団莊敬会 井上病院	井上 莊太郎
医療法人社団涼水会 木島小児科内科耳鼻咽喉科医院	木島 太郎
医療法人社団育心会 稲垣クリニック	稻垣 稔
医療法人社団温光会 内藤病院	内藤 誠二
代々木上原こどもクリニック	高見 剛
かずえキッズクリニック	川上 一恵
医療法人社団正賀会 代々木山下医院	山下 賀正
医療法人社団松和会 望星新宿南口クリニック	高橋 俊雅
医療法人社団祥樹会 きかわだクリニック	黄川田 雅之
日本赤十字社総合福祉センター レクロス広尾	友安 浩

③ カンファランスやセミナーなどへの参加

研修医は、研修先で指示された勉強会やセミナーには可能な限り参加すること。

表2 当院で定期的に行われているカンファランスやセミナー

＜各派遣先で実施（例）＞

学術講習会、胃集検、胸部X線症例検討会、各種カンファランス など